

第7次総合計画策定に向けた
地区別ワークショップ（大戸地区）議事要旨

【日時】 平成27年7月9日（木）14:00～16:00

【場所】 大戸公民館2階研修室

【ワークショップ参加者】 10名

【ファシリテーター（進行役）】 ㈱日本経済研究所 2名

【事務局】 市役所企画調整課 2名

【配付資料】

- ・地区別ワークショップ（大戸地区）次第
 - ・資料1 若年層とは
 - ・資料2 地区別ワークショップ資料 会津若松市 全体資料
 - ・資料3 地区別ワークショップ資料（大戸地区WS） 芦ノ牧温泉・大川周辺地域
 - ・資料4 地区別ワークショップ資料 年齢別 重視すべき政策と満足度（市全体）
-
-

テーマ：「若年層の定着」

【議事】

1. 開会（企画調整課長）

2. 配布資料説明

① 新総合計画について（企画調整課長）

・地区別ワークショップでは、地区ごとにテーマを設定し、話し合いをする。地域の方から出されたアイデアを新総合計画に盛り込みたいと考えている。

② 会津若松市・地区別の概況、若年層の捉え方について（日本経済研究所）

⇒ 若年層としては、10代、20代の若者及び40代くらいの子育て世代まで視野に入れると仮定

3. ワークショップ（進行役：日本経済研究所）

① 第1部 まちの良いところ

- ・自己紹介
- ・わがまち（大戸地区）の良いところをポストイットに記入（作業）（別紙参照）
- ・記入した内容を各自グループ内で発表
- ・グルーピングしてキーワードを設定

i) Aグループ

水、ラーメン、そば、夏涼しい、ウォーキング、山、小鳥、動物、温泉、鉄道遺跡、窯、大名行列の道、人間味、集落ごとのつながり

ii) Bグループ

人、女性、自然が豊か、災害がない、食べ物、立地、歴史

② 第2部 キャッチフレーズの作成

- ・わがまち（大戸地区）の良いところを踏まえて「若年層にまちの良いところをアピールするためのキャッチフレーズ」をポストイットに記入（作業）（別紙参照）
- ・グループ内での発表
- ・グループのポストイットを確認しながら、改めて、大戸地区の良いところと「若年層にまちの良いところをアピールする方法」を議論し、適宜ポストイットの追加、貼り替え
- ・発表内容、発表者決定

i) Aグループ

キャッチフレーズ：感性が豊かな安心して子育てができるまち など

アピール方法についての意見：

- ・若年層に定着してもらうためには、まず人に来てもらい、地域を活性化する必要がある。
- ・温泉とウォーキングを組み合わせ、誘客してはどうか。
- ・豊かな自然の中でバードウォッチング
- ・有機農業で活性化できないか。
- ・駅に貸し自転車置き、サイクリングロードを利用してラーメン等を食べるツアー
- ・温泉に泊まって大戸から喜多方までサイクリングとラーメン紀行
- ・ウォーキングしながら麺食い競争
- ・歴史散策しながらラーメン食べ歩き
- ・2世帯住宅の整備も必要ではないか。
- ・(保育所がないという声があるが) 保育所はある。知られていないだけ。周知の必要性がある。

その他意見：

- ・実際には、子育てするための公園もないので公園を作ってほしい。学校は管理の都合上、部外者に公開していないので、学校の遊具は使えない。
- ・かつては川で手づかみで採れるほど魚がいて、自然遊びがとても楽しかった。蛸も山のようにいた。今は、ダムや農薬散布のせいで、魚や虫がいない。
- ・有機農業ができる素地があると思うが、よそからインターネットで有機野菜を購入しているのが現状。誰かに作ってほしい。
- ・学校の生徒数がどんどん少なくなっているので、優れた英語教師を連れてきてもらって、他のどこにもない特別な英語授業を行うなどすれば、他地域の子どもが入学するかもしれない。

(進行役より)

- ・公園を作るのは費用がかかるため、市でもすぐにはできないのではないか。学校については保護者が管理面で協力することにより、公開は可能ではないか。学校に交渉してみる価値はある。
- ・かつての自然が素晴らしく、それが住民を惹きつける大きな魅力になっていたとす

れば、できる限り回復する努力や、現状でも可能な自然教室など、実施してはどうか。

- ・有機野菜がほしいのであれば、まず地域の方々自ら作ってみてはどうか。売れない、という声があるが、当初から大きく売れなくても、情報発信等により次第に売れていくかもしれない。まずはトライしてみてはどうか。
- ・例え市などが、優れた英語教師を派遣するとしても、「なぜ大戸地区なのか？」という疑問が必ず市内から起こるであろう。「選ばれる地域」になるための努力が必要ではないか。

ii) Bグループ

キャッチフレーズ：近所の人々が人生の先生/いつも居場所があるまち/地域で育むなど

アピール方法についての意見：

- ・若年層といっても、まったく知らない人では、トラブルも多い。自分たちの子どもが出て行かないようにするか、戻ってきてもらうという方がよいと思う。
- ・自分たちの子どもを、空き家に入居させればよいのではないか。
- ・大学に入ると、大都市で就職することを中心に教育される。地元で親と一緒に暮らせば、生活費も安く、子育てもしやすい。都会で就職するよりもロスが少なく豊かな暮らしができることを大学生に向けてPRしてはどうか。
- ・大戸からは、会津若松市内や猪苗代あたりまで車で通勤することもできる。
- ・外から若年層に来てもらうためには、インターネットを利用してまちの良いところをPRするのがよいのではないか。
- ・地域で面白いことをやっている人がいれば、自然に人は集まってくる。今大戸地区で最も多い世代である50代、60代が面白いことをやらないといけないのではないか。
- ・会津鉄道から見えるところに芝桜を植えて、外から来た人に見てもらい、よいところだと思ってもらってはどうか。
- ・桜を植える取組がある。
- ・イギリスでは、町中に果物やハーブを植えて自由にとって食べてよいとして地域活性化をしている例がある。大戸でもできるのではないか。
- ・とげなし山椒などは、この地域ではあまり食べないが、たくさんあるので活用できるかもしれない。
- ・郷土料理の料理教室などをすれば、地域外からも参加者が来るのではないか。
- ・お金が儲かる仕組みが必要だと思う。
- ・近所づきあいが深くて皆をよく知っている。農作物の作り方などわからないことは近所の人に聞けば教えてもらえる。人間味あふれるところがよいところだと思うが、若い人は嫌がるのではないかと思う。
- ・保育所などを充実させることも必要ではないか。(現在も延長保育など取り組んでいる)

- ・湊地区など他の地域との交流も重要ではないか。
- ・補助金をつけても、補助金がなくなったとたんには人はいなくなってしまうと思う。
お金をもらうのではなく、自分たちでお金を出すくらいする必要がある。
- ・意見が出ても、なかなか自分でやってみようという人が出ないことが課題だと思う。

③ 第3部 各グループ発表

- ・各グループの成果について、全体発表

i) Aグループ

- ・まちのよいところ
→温泉、駅、自然（小鳥、動物、川）、食べ物、人間味など
- ・アピール方法
→地区外の人に来てもらう
- ・具体策
→駅に貸自転車を置きサイクリングロードを利用してラーメン等を食べるツアー/温泉に泊まって大戸から喜多方までサイクリングとラーメン紀行/感性が豊かな安心して子育てができるまちをPR

ii) Bグループ

- ・まちのよいところ
→人、女性、自然が豊か、災害がない、食べ物、立地、歴史など 特に人
- ・アピール方法
→地区から出て行った人に戻ってきてもらう、地区外の人に来てもらう
- ・具体策
→空き家に自分たちの子どもに住んでもらう/大学生などに親と一緒に暮らすとロスがないことをPR/50代、60代が面白いことをする/食べられる植物を植える/芝桜、桜を植える/保育所等を充実させる/郷土料理の料理教室

⇒ 全体説明後、2グループに分かれて作業をした。グループ名はつけていないが、会議録作成の便宜上、先に発表したチームをAチーム、後に発表したチームをBチームとして記載した。

⇒ 各グループに日本経済研究所職員が入り、進行支援を実施した。

④ 全体講評（進行役）

⇒ 大戸地区には、自然、温泉、鉄道、人など良いところがたくさんあることが確認できた。「若年層の定着」というのは非常に難しいテーマである。「若年層の定着」というテーマの裏には、まちの良さを若年層が認識すると同時に、具体的に大戸地区に住むメリットを感じる必要がある。現在、定着していないのであれば、具体的な対策を打っていかなければならない。魅力的な資源を活かしつつ、魅力的なまちづくりを地域の方々自身で行っていく必要がある。対策は小さなことから構わない。例えば、「小さな子供

を遊ばせる公園がない」という声があったが、公園を新たに設置するのは、費用がかかる。一方で、小学校の校庭には遊具がある。小学校の子どもの数は非常に少なくなっているので、土日など、幼児に開放してもらおうよう、交渉してみてもどうか。鍵の管理を保護者が行うことにより、校庭を他者に開放できている事例はたくさんあると思われる。このように、課題があるならば、どのようにすればよいか、まちの良いところをどうPRしていくか、自ら具体的な方法を考えていかなければならない。本日のアイデアも活かして、引き続き地区で話し合いをしていただければと思う。

⑤ 質疑・意見（参加者）

- ・地域を活性化して若年層に定着してもらうためには、お年寄りの意識の改善も必要と思う。
- ・公営住宅や光通信の整備など市にもお願いしたいことがある。

4. 事務連絡（企画調整課長）

5. 閉会（企画調整課長）

